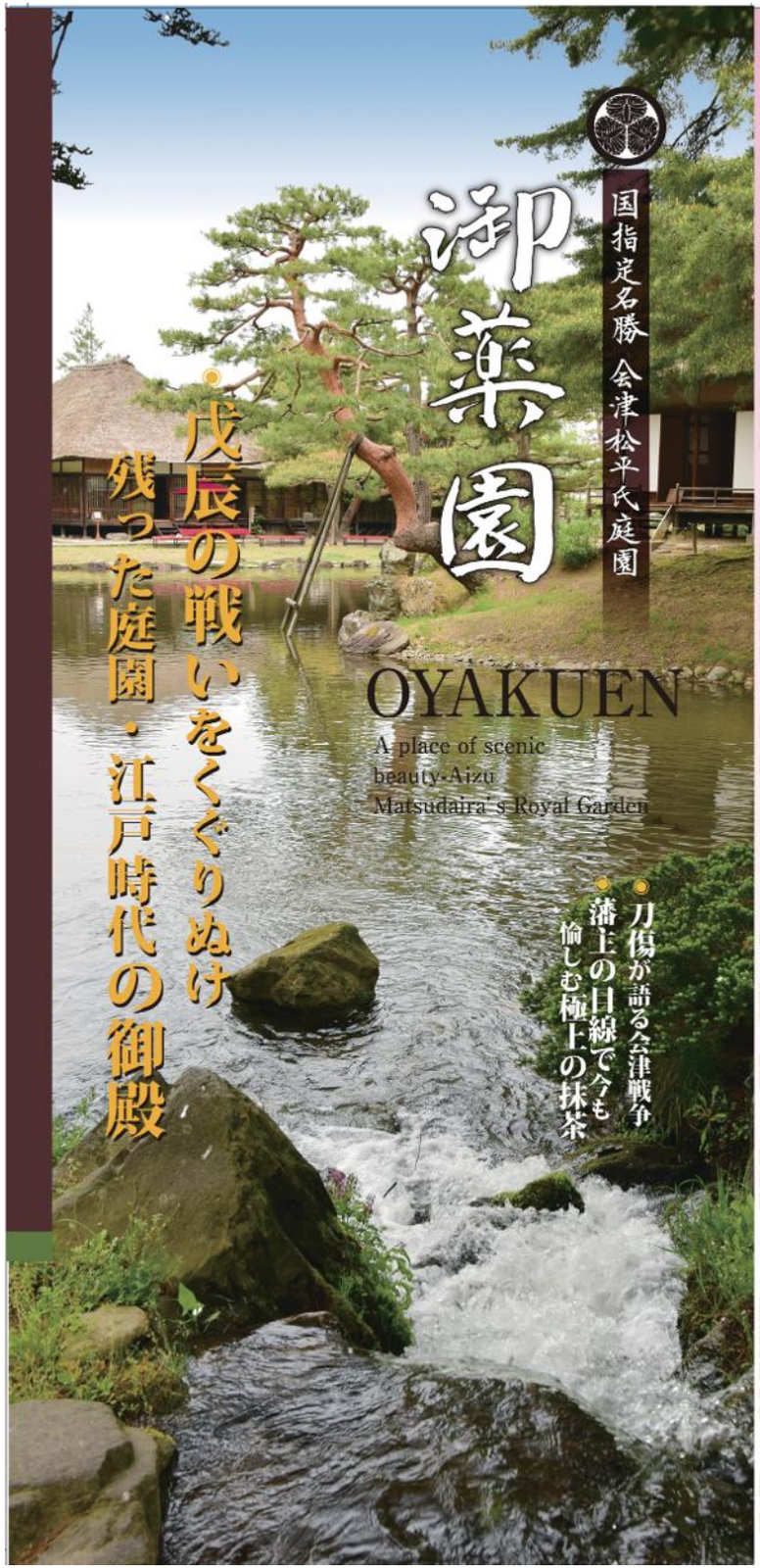


旅の思い出にスタンプをどうぞ

交通のご案内



営業のご案内

■開園時間／午前 8:30～午後 5:00【入場締切午後 4:30】

国指定名勝 会津松平氏庭園
御薬園
〒965-0804 福島県会津若松市花春町 8-1
TEL 0242-27-2472 FAX 0242-29-1322

御薬園 検索

御薬園の花（春夏秋、様々な花が園内を彩ります）





沿革	創設	永享年間	葦名氏	庭園分類	借景池泉回遊式（作　目黒浄定）
	薬園設置	寛文 10 年	保科氏		
	庭園修復	元禄　9 年	松平氏	敷地面積	5100 坪（約 17000 ㎡）
	名勝指定	昭和　7 年			
	追加指定	昭和 54 年			









御薬園の主な歴史

至徳年間	1384年～1386年	会津領主葦名直盛の頃、朝日保方という老人が、この地にあった薬泉を用い、疫病に難儀する喜助という農民を助けました。この薬泉は「鶴ヶ清水」と名付けられ、かたわらには、朝日保方老人を祀る「朝日神社」が建てられました。（伝承）
永享年間	1429年～1441年	会津領主葦名盛久は、この地が霊地であるとして、別荘を建てたました。（伝承）
天正年間	1573年～1593年	会津領主葦名盛氏は、荒廃した別荘を復興しました。（伝承）
寛永二十年以降	1643年～	会津松平家藩祖保科正之は、霊地の由緒を正して別荘を再建しました。
寛文十年	1670年	二代藩主、保科正経は園内に各種の薬草を栽培しました。
貞享年間	1684年～1687年	三代藩主松平正容は園内に朝鮮人参を試植し、広く民間に奨励したことから「御薬園」と呼ばれるようになりました。
元禄九年	1696年	目黒浄定による庭園の大改修が行われ、借景を取り入れた庭園となりました。
慶応四年	1868年	戊辰戦争が勃発。九代藩主容保は鳥羽・伏見の戦いの後、藩主の座を喜徳に譲り、しばらく御薬園で過ごしました。会津戦争が始まると、御茶屋御殿は新政府軍の治療所となりました。
明治六年	1873年	若松の豪商長尾源治和俊らが中心となり、多くの寄付が寄せられ官有となっていた御薬園を買い戻し、松平家に献上しました。
明治十六年	1883年	松平容保ご一家が東京から御薬園に移り住み、数年間を過ごされました。
昭和七年	1932年	御薬園が国の名勝指定を受けました。
昭和十一年	1936年	歌人与謝野晶子が来園し、歌を残しました。
昭和四八年	1973年	秩父宮妃勢津子殿下ゆかりの重陽閣が移築されました。





御茶屋御殿

会津戦争では、御薬園は新政府軍の療養所として使用されました。このため、御茶屋御殿、楽寿亭は焼失を免れましたが、当時の刀傷が今も残っています。



秩父宮妃勢津子殿下ゆかりの 重陽閣

昭和48年に移築された重陽閣は、秩父宮妃勢津子殿下がご成婚のご報告をされる際、東山温泉に建てられた建物です。

内部は意匠の凝った造りとなっており、1階には妃殿下を顕彰する「想ひ出の部屋」も併設されております。





茶の湯（3月中旬～11月末まで営業）

御茶屋御殿にて抹茶席をご用意しております。藩主と同じ目線で、四季折々の景色をお楽しみください。



◉お抹茶席



御薬園の由来と物産

会津松平家二代藩主保科正経は、領民を疫病から救うため薬草園を整備しました。三代藩主松平正容は、朝鮮人参を試植し、広く民間にも奨励したことから「御薬園」の名で呼ばれるようになりました。現在、御薬園では薬草茶等を中心に厳選した商品を多数そろえております。







通信販売も承ります

フリーダイヤル ▶ 0120-0890-55（オヤクエンココ）

インターネット ▶ http://tsurugajoshop.cart.fc2.com